



2019年5月20日

## 変革を迫られるドイツの銀行構造

公益財団法人 国際通貨研究所  
開発経済調査部副部長 麻野文裕

2019年4月25日、ドイツ最大手のドイツ銀行とコメルツ銀行は、合併協議を断念すると発表した。ドイツ銀行のゼーピング最高経営責任者（CEO）は、「この案件は十分な利益をもたらさないという結論に達した」<sup>1</sup>と述べたが、要するに、低収益に苦しむ両行を足し合わせても、収益性ある銀行像を描けなかった、というのが結論であったと考えられる。

こうした結論とならざるを得なかった背景の一つとして、ドイツ銀行業界の構造的問題、つまり、①オーバーバンキング（銀行過剰）、②公営銀行部門（貯蓄銀行グループ）の存在、がある<sup>2</sup>。同国の銀行総数は2017年時点で1,500超におよぶ（表1）。確かに、減少傾向にはあるものの、欧州他国と比べると、依然としてかなりのオーバーバンキング状態にある<sup>3</sup>。また、現行の法規制上、業態を超えた銀行再編（民間商業銀行による貯蓄銀行の買収等）は困難であり、業態別の市場シェアは硬直的である（表2）。

【表1:ドイツにおける業態別銀行数および収益率】

カテゴリー	銀行数			自己資本利益率(税引前)(%)		
	2012年	2017年	増減	2013年	2017年	増減
①民間商業銀行	183	172	-11	4.96	3.94	-1.02
うち大銀行(注)	4	4	0	4.58	2.88	-1.70
②貯蓄銀行グループ	432	398	-34	-	-	-
うちランデスバンク	9	8	-1	-0.80	1.85	2.65
うち貯蓄銀行	423	390	-33	10.61	9.39	-1.22
③信用協同組合	1,101	915	-186	14.75	10.13	-4.62
④その他(専門銀行等)	60	53	-7	-	-	-
合計	1,776	1,538	-238	5.28	5.61	0.33

(注)大銀行は、ドイツ銀行、コメルツ銀行、Unicredit Bank、ポストバンクの4行。

(出所)Deutsche Bundesbank Monthly Report September 2018, p.49, 58-60

<sup>1</sup> 2019年4月26日付け日本経済新聞朝刊

<sup>2</sup> ドイツの銀行は、一部の専門銀行を除き、証券業務等も併営するユニバーサルバンク・システムをとっている。このユニバーサルバンクは、①民間商業銀行、②貯蓄銀行グループ、③信用協同組合の3つの業態に大別され、「三本柱構造(Drei-Säulen-Modell)」と呼ばれる。なお、貯蓄銀行(Sparkasse)は、公法上の公的金融機関であり、各地域の地方自治体が設立母体となっている。また、ランデスバンクは貯蓄銀行の上部組織であり、州政府や地方貯蓄銀行協会等を設立母体としている。

<sup>3</sup> 独 Handelsblatt 紙(2019年4月5日付, p.33)によると、欧州主要国の銀行数(2017年)は、英国:370、フランス:422、イタリア:546、スペイン:206で、人口を考慮してもドイツの銀行数は極端に多い。

【表2:ドイツ銀行業界における業態別シェア(総資産ベース)】

(単位:10億ユーロ)

カテゴリー	2012年		2017年		増減	
	金額	シェア	金額	シェア	金額	シェア
①民間商業銀行	4,132	43.3%	3,533	42.8%	-599	-0.5%
うち大銀行	3,217	33.7%	2,400	29.1%	-817	-4.6%
②貯蓄銀行グループ	2,468	25.9%	2,119	25.7%	-349	-0.2%
うちランデスバンク	1,371	14.4%	940	11.4%	-431	-3.0%
うち貯蓄銀行	1,096	11.5%	1,179	14.3%	83	2.8%
③信用協同組合	739	7.7%	867	10.5%	128	2.8%
④その他(専門銀行等)	2,204	23.1%	1,730	21.0%	-474	-2.1%
合計	9,543	100%	8,249	100%	-1,294	-

(出所)Deutsche Bundesbank Monthly Report September 2018, p.58-60

個々の貯蓄銀行や信用協同組合は比較的小規模で、営業活動は各地域に限定されるが、両業態合算では36% (2017年)の市場シェアを有し(表2)、伝統的にリテール・中小企業金融で強みを発揮してきた。このため、大手民間銀行は同分野におけるシェア拡大が困難で、これが収益低迷の大きな一因とされてきた(表1)。

ドイツのショルツ財務相は、ドイツ企業の国際展開をサポートできる強固な銀行(ナショナルチャンピオン)が必要だと主張し、ドイツ銀行とコメルツ銀行の合併を後押ししていた。しかし、銀行業界の構造的問題が存在する中、大手2行が合併してもシナジー効果は限定的で、「ナショナルチャンピオン」を誕生させることは困難であった。

ショルツ財務相の「ナショナルチャンピオン」の考え方に対し、「銀行同盟」を推進する欧州連合(EU)にあって、銀行再編はドイツ国内だけでなく欧州レベルで考えるべきだとの意見もある<sup>4</sup>。ただ、いずれにしても、ドイツとしては、貯蓄銀行グループの民営化、業態を超えた再編等によって、これまで硬直的であった伝統的な国内銀行構造の改革、効率化へ大きく踏み出すべき時が近づいているのではないかと思われる。

地方自治体や州政府が出資する貯蓄銀行グループの改革・再編は、政治的な困難を伴うものと推測されるが、変化を予感させる兆しもある。近年、IT(情報技術)の進歩に伴い、支店を持たない、いわゆるダイレクト・バンク(ドイツ語でDirektbanken)と呼ばれる業態が急成長している<sup>5</sup>。貯蓄銀行グループや信用協同組合も支店の大幅な統廃合、インターネット業務の強化等を迫られており、こうした動きは、本来特定地域のみで業務活動を行うべき両業態の存在意義そのものにも影響を与える可能性がある。

収益率の改善が求められる大手民間銀行だけでなく、貯蓄銀行グループや信用協同組合といった中小金融機関にも変革の波が押し寄せるドイツ金融界において、硬直的であった銀行構造に今後どのような変化が起こるのか、ドイツ政府としてはどのような役割を演じるのか、今後の動向に注目したい。

以上

<sup>4</sup> 欧州中央銀行(ECB)のデギントス副総裁は2019年5月1日、ユーロ圏の銀行の構造的な低収益性が金融システムの安定に対する懸念材料になっていると指摘。収益性改善のためには銀行同士の統合が必要で、それは国境を越えた統合でも国内再編でも意味がある、との見解を示した(出所:ECBホームページ)。

<sup>5</sup> 全ドイツのダイレクト・バンク業態の顧客数は、2000年の約3.9百万から2017年には約19百万に約5倍となった。オランダ系のING-DiBa(約8.5百万、2017年)等が急成長している(出所:Statista 2019)。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。